

島根県立大学北東アジア地域研究（NEAR）センター

Institute for North East Asian Research

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2

TEL : 0855-24-2375 E-Mail : near-c@u-shimane.ac.jp

URL : <http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/>

(NEAR センターで検索ください)

NEAR センターは、北東アジア研究の拠点を築くのみならず、
大学院教育・地域との連携を積極的に推し進めています。

NEARセンターの活動のひとこま

島根県立大学・北京大学合同シンポジウム
「ナショナリズムの再考と日中関係」



NIHU シンポ「北東アジアにおける近代空間の
形成」(於:ソウル国立大学)



NIHU シンポ「北東アジアにおける近代空間の
成立」(於:国際日本文化研究センター)



第十七回西周シンポジウム



□主な活動内容(令和3(2021)年度)

1. 情報の収集と発信

○情報の収集・提供

センター・ホームページ：<http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/>
(NEARセンターで検索ください)

○情報誌の発行

ニューズレター『NEAR News』(年2回刊行)

センター機関誌『北東アジア研究』(年1回刊行・査読付き学術雑誌)

いずれもセンターサイトより閲覧・ダウンロード可能。サイト内の「成果物」を参照ください。

○研究成果等の出版

《書籍》

- ・宇野重昭、増田祐司編『北東アジア地域研究序説』2000年3月、国際書院。
- ・増田祐司編『21世紀の北東アジアと世界』2001年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、増田祐司編『21世紀北東アジアの地域発展』2002年3月、日本評論社。
- ・宇野重昭、増田祐司編『北東アジア世界の形成と展開』2002年3月、日本評論社。
- ・宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』2002年6月、国際書院。
- ・宇野重昭編『北東アジアにおける中国と日本』2003年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、勝村哲也、今岡日出紀編『海洋資源開発とオーシャン・ガバナンス』2004年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、鹿錫俊編『中国における共同体の再編と内発的自治の試み』2005年3月、国際書院。
- ・島根県立大学西周研究会編『西周と日本の近代』2005年3月、ペリかん社。
- ・宇野重昭、別枝行夫、福原裕二編『日本・中国からみた朝鮮半島問題』2007年3月、国際書院。
- ・デービッド・レーン著、溝端佐登史・林裕明・小西豊著訳『国家社会主義の興亡—体制転換の政治経済学—』2007年7月、明石書店。
- ・宇野重昭、唐燕霞編『転機に立つ日中関係とアメリカ』2008年3月、国際書院。
- ・宇野重昭、小林博編『北東アジア地域協力の可能性』2009年3月、国際書院。
- ・飯田泰三、李曉東編『転形期における中国と日本：その苦悩と展望』2012年10月、国際書院。
- ・金日宇・文素然著、井上治監訳、石田徹・木下順子訳『韓国・済州島と遊牧騎馬文化』2015年1月、明石書店。
- ・飯田泰三編『北東アジアの地域交流——古代から現代、そして未来へ——』2015年6月、国際書院。
- ・宇野重昭、江口伸吾、李曉東編『中国式発展の独自性と普遍性—「中国模式」の提起をめぐって—』2016年3月、国際書院。
- ・飯田泰三監修、井上厚史・石田徹訳、朴忠錫『韓国政治思想史』2016年9月、法政大学出版局。
- ・佐藤壮、江口伸吾編『変動期の国際秩序とグローバル・アクター中国—外交・内政・歴史—』2018年3月、国際書院。

【北東アジア学創成シリーズ】(全5巻)

- ・宇野重昭『北東アジア学創成シリーズ第1巻・北東アジア学への道』2012年11月、国際書院。
- ・福原裕二『北東アジア学創成シリーズ第2巻・北東アジアと朝鮮半島研究』2015年7月、国際書院。

院。

- ・李曉東『北東アジア学創成シリーズ第3巻・現代中国の省察—「百姓」社会の視点から—』2018年7月、国際書院。
- ・林裕明『北東アジア学創成シリーズ第4巻・ロシア社会の体制転換—階層構造の変化に着目して—』2021年3月、国際書院。
- ・江口伸吾『北東アジア学創成シリーズ第5巻・現代中国の社会ガバナンス—政治統合の社会的基盤をめぐる—』2021年3月、国際書院。
全5巻完結。

《ワーキングペーパー・シンポジウム報告書》(過去3年間)

- ・福原裕二編『北東アジア諸国間の協力可能性とモンゴル国の役割』2018年3月。

《シンポジウムの開催》(過去3年間)

- ・「16～19世紀東アジア国際秩序の成立と変容の研究—日本・朝鮮・中国(明清)三国の比較という視点」(2018年11月：主催・名古屋大学高等研究院科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業支援共同研究、共催・NEARセンター/NIHUプロジェクト、科研費(池内敏「訳官使と通信使の総合的研究」、石田徹「前近代日朝関係における『訳官使』の基礎的研究」)
- ・「北東アジアの環境問題の現在と将来：地域研究と地域比較の視点」総括シンポジウム(2019年2月：NEARセンター日韓・日朝交流史研究会、島根県立大学「北東アジアの環境問題」)
- ・島根県立大学・北京大学国際関係学院合同シンポジウム「ナショナリズムの再考と日中関係——『一带一路』構想と日本の対応」(2019年10月25日)
- ・「朝鮮半島の非核化」2019日韓国際学術シンポジウム(2019年12月：NEARセンター日韓・日朝交流史研究会、「朝鮮半島の非核化」をめぐる学際的考察」PJ、韓国・誠信女子大学校東アジア研究所、韓国・高麗大学校グローバル日本研究院社会災難安全研究センター)

2. 調査・研究事業

◎人間文化研究機構(NIHU)・北東アジア地域研究推進事業

NEARセンターは人間文化研究機構が進める北東アジア地域研究推進事業の研究拠点の1つに選ばれ、平成28(2016)年度より「北東アジアにおける近代的空間の形成とその影響」というテーマで国際日本文化研究センターと連携しながら、空間としての北東アジアを形成した複合的統治システムの形成、清朝・ロシア帝国・大日本帝国という3つの重層パワーの歴史的関係性、そしてこの地域のコンタクト・ゾーンにおける力学や流動性を明らかにすべく共同研究を進めています。

《シンポジウム等の開催》

<2017年度>

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学NEARセンター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」第二回国際シンポジウム2017「北東アジア-胎動期の諸相」(東北師範大学(中国・長春))9月19日-9月20日

<2018年度>

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学NEARセンター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」日文研ワークショップ「北東アジアにおける近代空間の成立」(国際日本文化研究センター)3月16日
- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」シンポジウム「北東アジアにおける地域構造の変容—越境から考察する共生への道—」(国立民族学博物館)9月22日～23日 ※

NEAR 拠点セッションは9月23日

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」沖縄ワークショップ「コンタクト・ゾーンにおける『近代』」(琉球大学) 9月25日

<2019年度>

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」シンポジウム「北東アジアにおける『近代』空間の形成：帝国と思想」(ソウル国立大学) 10月5日
- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」シンポジウム「北東アジア近代空間の成立：いわゆる満蒙を中心に」(国際日本文化研究センター) 12月14日

<2020年度>

- 人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」島根県立大学 NEAR センター拠点プロジェクト「近代的空間の形成とその影響」総括シンポジウム(島根県立大学・オンライン開催) 11月7日

○重点プロジェクト

《北東アジア学創成プロジェクト》

「北東アジア学」の創成を目指し、その中核組織として「北東アジア研究会」を組織しています(年6回程度開催)。

《日韓・日朝交流史研究プロジェクト》

日本と朝鮮半島を中心とする北東アジア地域の交流促進を目指し、学術的な立場から幅広く日韓・日朝関係の歴史とそれを巡る国際関係を分析することを目的に「日韓・日朝交流史研究会」を組織しています(年4回程度開催)。

《北東アジア地域研究》

「北東アジア学」の創成の課題をより豊かな視点からアプローチすることができるように、各研究員がそれぞれの専門・人脈により研究会を立ち上げ、内部・外部資金を獲得し、個性ある研究を遂行しています。

○研究ユニット

NEAR センターでは平成25(2013)年度より、共同研究プロジェクトを推進する母体として「歴史・文化・思想」部門、「政治・経済・国際関係」部門、「北東アジア超域」部門の3部門からなる「研究ユニット」を組織し、より有機的な研究体制づくりに努めています。

○その他の研究活動

《超域アジア研究・「北東アジア学創成シリーズ」の刊行》

NEAR センターを中心に大学院との連携を図りつつ、全国的にもユニークな「北東アジア超域」専攻を有する大学院教育の実質化を側面から支援すべく、各研究員が「超域」を志向した研究に取り組んでいます。NEAR センターでは、多様な史的展開、多角的なヒト・モノ・文化が接触・交流する中で形成されてきた北東アジア世界を、地域の国際化・グローバル化がさらに進行する未来を眺望しながら、人文科学・社会科学の個別学問諸分野の域を超えて学際的に追究する、二

重の意味での「超域」研究を展開し、その成果を『北東アジア学創成シリーズ』として刊行しています（2020年度をもって全5巻の刊行事業が完結）。

《西周研究》

幕末から明治にかけ東西の思想を学び日本の近代化を推進した、津和野出身の西周の研究を通じて、新たな学術的展開を図るべく、研究会が運営されています。その成果は、島根県立大学西周研究会編『西周と日本の近代』（ペリかん社、2005年）として刊行されました。また毎年秋には、津和野町で市民も参加できるシンポジウムやセミナーなどを開催しています。

3. 大学院との連携

○NEAR センター准研究員制度

この制度は、大学院博士後期課程に在籍する大学院生の中で、博士論文の執筆や北東アジア学創成の一助につながる優れた研究計画を作成した者を准研究員に任命し、センターを挙げてその研究活動を支援・指導する枠組みです。

准研究員に任命された大学院生は、三年間にわたって大学からの研究資金が助成され、この助成制度を活用することで、大学院における研究指導科目「特別研究活動」の単位取得に役立てることもできる制度です。

4. 地域社会との連携

○NEAR センター市民研究員制度

NEAR センター市民研究員制度の発端は、本学が大学発足の早い段階から進めてきた大学院入門レベルのいわゆる「NEAR カレッジ」という講座の中で、既に実社会で多くの経験を持たれている優秀な方々が多数おられることに感銘を受けたことにありました。そして、平成18（2006）年度に本学大学院が文部科学省「“魅力ある大学院教育”イニシアティブ」の助成対象校として選ばれたことを機に創設しました。具体的には、市民の方々の中から、大学院生や教員と共に、広い意味での北東アジア研究に関し共同研究を進めていただくことで、キャンパスの外の発想を大学に取り入れ、大学院教育と研究を刺激していただくという、全国的にもユニークな制度です。

○NEAR センター市民研究員制度の具体的な取り組み

《市民研究員全体会・市民研究員研究会》

市民研究員全体会ならびに市民研究員研究会は、市民研究員を中心に、NEAR センター研究員、大学院生が一堂に介し、制度の運営・活動の構想やアイデアを出し合う場、またそれぞれの研究成果を持ち寄り、発表・検討する場です。主に、グループ・リサーチ・サロンの構成や市民研究員の研究報告会、市民研究員一院生の共同研究報告会などを行います。

《市民研究員グループ・リサーチ・サロン》

市民研究員グループ・リサーチ・サロンは、市民研究員が主体となって複数の研究グループを組織し、関連する領域の共同研究や情報交換、NEAR 研究員・大学院生と密度の濃い学術交流を行うための集いです。市民研究員間のつながりと、NEAR 研究員・院生との有機的な連携が発揮され、創造性豊かな活動が展開されるものと期待し、2012年度より制度の中核的活動となってい

ます。

《市民研究員と大学院生との共同研究》

市民研究員制度の特徴ある取り組みとして、「市民研究員-大学院生との共同研究」が行われています。この共同研究は、大学院生が市民研究員及び教員との自発的な研究グループを組織し、実行可能な優れた研究計画を立案すれば、これに対してセンターが研究資金を助成する事業です。昨年度は、2件の共同研究が採択されました。過去2年間の採択課題は、次の通りです。なお、研究資金の一部に浜田市から共同研究事業補助金の助成をいただいています。

<2019年度>

- 「中国・内モンゴル自治区興安盟地域におけるトリリンガル教育に含まれるモンゴル語教育の持つ意義について——特にモンゴル語保持との関連から」（大学院生：何桂蘭 [北東アジア開発研究科博士前期課程1年]、市民研究員：岡崎秀紀、指導教員：井上治教授）
- 「留学生の視点から考える多文化共生政策：島根県の中国人留学生の異文化適応をめぐって」（大学院生：陳其柔 [北東アジア開発研究科博士前期課程1年]、市民研究員：趙冰、指導教員：石田徹准教授）

<2020年度>

- 「『子どもの最善の利益』からみた中国の離婚冷静期制度—日本法への示唆を兼ねて—」（大学院生：謝亜男 [北東アジア開発研究科博士前期課程1年]、市民研究員：福原彬文、指導教員：李憲准教授）
- 「内モンゴル自治区における社会変動とモンゴル語方言の変容について—シリンゴル地域と通遼地域を事例として—」（大学院生：娜日斯格 [北東アジア開発研究科博士前期課程1年]、市民研究員：岡崎秀紀・若林一弘、指導教員：孟達来准教授）

《報告書の刊行》

2008年度には、市民研究員制度に関わる活動を取りまとめた、NEARセンター編『「NEARセンター市民研究員制度」2年間の歩み 2006～2007』を刊行しました。2010年度には、2008年度から2010年度までの3か年の活動を取りまとめた、NEARセンター編『「NEARセンター市民研究員制度」活動報告書 2008～2010』を刊行しました。

5. データベースの構築

○韓国／朝鮮関係資料目録

- ・竹島／独島関係史・資料目録
- ・韓・日会談文書目録
- ・日韓関係（1952～74年）文書目録—第13次公開分—

いずれもセンターサイトより閲覧・ダウンロードできます。サイト内のライブラリー（NEARセンター図書資料室所蔵資料）を参照ください。

○宇野家文書デジタルライブラリ (<http://near-archive.jp/>)

本デジタルライブラリは、島根県隠岐郡の別府で代々官司を務めていた宇野家に江戸時代から伝わってきた神道関係を中心とした古文書（和書）74点の中からこれまで活字刊行されていない貴重書31点を「宇野家文書」として書誌情報を加えて全文画像を広く一般に公開するものです。なお、本デジタルライブラリ構築にあたっては、「島根県立大学平成27年度学術教育研究

特別助成金(共同研究分)・「島根県立大学平成28年度学術教育研究特別助成金(共同研究文)」の助成を受けました。

6. 外部資金の獲得

○センター研究員による外部資金の獲得状況 (獲得年度順)

- ・李曉東研究員「中国格差社会における「つながり」の生成—基層社会の弱者に対する支援を手掛かりに」[科学研究費補助金・基盤研究(B)]
- ・井上治研究員「18・19世紀モンゴル語年代記の記述内容の変遷に関する研究」[科学研究費補助金・基盤研究(C)]
- ・福原裕二研究員「北東アジアにおける国境漁業の実証的研究：海洋の公共財的共同利用の模索」[科学研究費補助金・基盤研究(C)]
- ・石田徹研究員「前近代日朝関係における『訳官使』の全体像の解明」[学術研究助成基金助成金・基盤研究(C)]

□センター研究員紹介

NEAR センター・センター長 (兼研究員) : 李 曉東 (LI Xiaodong)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部教授。博士（政治学）。
専門は、近代日中関係史、近代中国政治思想史、中国地域研究。

NEAR センター・副センター長 (兼研究員) : 石田 徹 (ISHIDA Toru)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部准教授。博士（政治学）。
専門は、日本政治史・日朝関係史。

NEAR センター・センター長補佐 (兼研究員) : 孟 達来 (Möngkedalai)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部准教授。博士（学術）。
専門は、言語学、モンゴル語、アルタイ諸語、中国語。

NEAR センター研究員 (50音順)

李 正吉 (LEE Jungkil)

人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員／島根県立大学北東アジア地域研究センター研究員。博士（法学）。専門は、政治学、近現代韓国政治、比較政治。

井上 厚史 (INOUE Atsushi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／地域政策学部教授。副学長。
専門は、日本思想史、東アジアの儒学思想。

井上 治 (INOUE Osamu)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部教授。博士（文学）。
早稲田大学中央ユーラシア歴史文化研究所招聘研究員。専門は、モンゴル史。

高 一 (KO I)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部准教授。博士（法学）。
専門は、東アジア国際関係史、朝鮮現代史。

佐藤 壮 (SATO Takeshi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部教授。

専門は、国際関係論、東アジア安全保障論、米国の対アジア太平洋政策。

豊田 知世 (TOYOTA Tomoyo)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／地域政策学部准教授。博士（学術）。

中村 圭 (NAKAMURA Kei)

島根県立大学国際関係学部准教授。博士（社会イノベーション学）。

専門は、中国人人材流動研究、中国企業経営論。

濱田 泰弘 (HAMADA Yasuhiro)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部教授。博士（政治学）。

専門は、ドイツ政治思想史、ドイツ原子力法。

福原 裕二 (FUKUHARA Yuji)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部教授。博士（学術）。

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究共同研究員。

専門は、国際関係史、朝鮮半島の地域研究。

山本 健三 (YAMAMOTO Kenso)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部教授。博士（学術）。

専門は、近代ロシア政治思想史、ロシア地域研究。

渡辺 圭 (WATANABE Kei)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科／国際関係学部講師。博士（文学）。

専門は、ロシア正教会史、ロシア宗教思想史。

NEAR センター名誉研究員（50音順）

飯田 泰三 (IIDA Taizo)

島根県立大学名誉教授。法政大学名誉教授。

宇野 重昭 (UNO Shigeaki)

島根県立大学名誉学長（名誉教授）。成蹊大学名誉教授（故人）。

□センター客員研究員紹介(2021年4月1日現在)順不同

セルゲイ・I・クズネツォフ (Sergey I. Kuznetsov) ロシア・イルクーツク大学歴史学部教授

諏訪淳一郎 (SUWA Junichiro) 弘前大学国際連携本部准教授

鹿錫俊 (LU Xijun) 大東文化大学国際関係学部教授

唐燕霞 (TANG Yanxia) 愛知大学現代中国学部・大学院中国研究科教授

菅原光 (SUGAWARA Hikaru) 専修大学法学部教授

ライハンスレン アルタンザヤ (Lhaikhansuren Altanzaya) モンゴル・モンゴル国立教育大学教授

オンドロナ (Unduruna) 中国・内モンゴル大学民族学・社会学学院准教授

ウスマノヴァ ラリサ (Usmanova Larisa) タタールスタン共和国科学アカデミー歴史研究所主任研究員

于臣 (YU Chen) 横浜国立大学国際戦略推進機構准教授

趙曉紅 (ZHAO Xiaohong) 中国・浙江大学人文学院歴史学系准教授

李良姫 (LEE Yanghee) 兵庫大学現代ビジネス学部現代ビジネス科教授

西野可奈 (NISHINO Kana) 東京農工大学国際センター特任准教授

内田孝 (UCHIDA Takashi)

金仙熙 (KIM Sunhee) 韓国・建国大学校アジアコンテンツ研究所前任研究員

張紹鐸 (ZHANG Shaoduo) 中国・上海外国語大学准教授

沢目健介 (SAWAME Kensuke) 高崎経済大学経済学部非常勤講師
張基善 (JANG Gisun) 宮城教育大学非常勤講師
朴昶建 (PARK Chang-Gun) 韓国・国民大学校グローバル人文地域大学日本学科助教授、
東アジア戦略研究所副所長
新井健一郎 (ARAI Kenichiro) 翻訳家
柳小正 (LIU Xiaozheng) エイジウム研究所主任研究員
市川聖 (ICHIKAWA Takashi) ノースアジア大学経済学部経済学科講師
尹鈺喜 (YOON Jin-Hee) 北海道教育大学教育学部国際地域学科講師
古川祐貴 (FURUKAWA Yuki) 長崎県立対馬歴史研究センター主任学芸員
全榮 (Quan Rong) 中国・内モンゴル社会科学院歴史研究所研究員 (教授)
村井洋 (MURAI Hiroshi) 島根県立大学名誉教授
崔穎麗 (CUI Yingli) 中国・九江学院・マルクス主義学院・情勢と政策研究学科講師
尹虎 (YIN Hu) 中国・清華大学人文学院思想文化研究所研究員
阿部(高木)早苗 (ABE(TAKAGI) Sanae) 早稲田大学文学学術院非常勤講師
羅禎源 (NAH Jeong Won) 韓国・国立江原大学校政治外交学科教授
江口伸吾 (EGUCHI Shingo) 南山大学外国語学部教授